

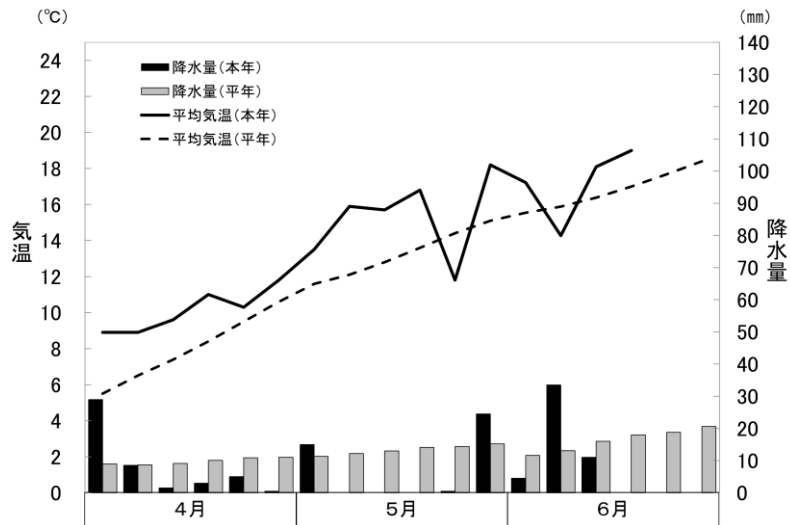
上北農業生産情報 第3号

令和8年6月25日
青森県上北農林水産事務所

【農作業中の熱中症に注意しましょう!!】

- 高温時の作業は避けましょう。
- こまめな休憩と水分・塩分補給を行いましょう。
- 1人での作業は避け、出かける前に家族に一声かけましょう。
- 熱中症対策グッズ（帽子・空調服等）を活用しましょう。

気 象



【半旬別気温・降水量の推移（十和田アメダス）】

《5月》

- ・平均気温、最高気温、最低気温、日照時間は期間を通じ平年を上回った。
- ・降水量は、期間を通じ平年を下回った。

【5月の気象（十和田アメダス）】

項目	平均気温（℃）		最高気温（℃）		最低気温（℃）		日照時間（h）		降水量（mm）	
時期	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	14.6	11.9	20.2	17.8	8.4	6.0	66.5	62.7	19.5	23.4
中旬	16.2	13.2	23.6	18.8	9.7	8.0	90.7	63.0	0.0	26.2
下旬	15.3	14.8	20.7	20.4	10.4	9.6	81.3	72.0	25.0	30.9

注）気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計（下旬は11日間）

《6月上中旬》

- ・平均気温、最低気温は期間を通じ平年を上回った。
- ・最高気温、日照時間は上旬で平年を下回り、中旬では上回った。
- ・降水量は上旬では平年を上回り、中旬では下回った。

【6月上中旬の気象（十和田アメダス）】

項目	平均気温（℃）		最高気温（℃）		最低気温（℃）		日照時間（h）		降水量（mm）	
時期	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	15.8	15.7	19.6	20.9	12.3	10.9	39.4	61.0	38.0	21.2
中旬	18.5	15.7	24.5	21.6	13.7	12.6	85.3	48.8	11.0	34.0

注）気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計

東北地方 1か月予報(6月20日から7月19日までの天候見通し)

令和8年6月18日 仙台管区气象台 発表

○期間のはじめは冷涼な空気が流れ込みやすく、気温がかなり低くなる見込みです。向こう1か月の気温は平年並か低いでしょう。

○平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

水 稲

《生育状況》

- 1 管内の田植え最盛期(50%進ちよく)は平年並の5月21日、終わり(95%進ちよく)は5月27日で平年より1日早かった。

年 \ 田植進度	田植始め	田植最盛期	田植終わり
本年	5月14日	5月21日	5月27日
平年	5月14日	5月21日	5月28日
平年差	±0日	±0日	1日早

- 2 6月19日の生育調査結果では、草丈は平年より短く、茎数は平年よりやや少なく、葉齢は平年並だった。田植え後、一部ほ場で低温・強風による代枯れが見られたが、回復している。

年 \ 項目	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	m ² 当たり茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)
本年	38.6	11.3	232	7.3
平年	43.9	12.3	257	7.4

※本年、平年ともに県生育観測ほ4か所の平均値

《今後1か月の主な作業》

1 水管理

- (1) 低温時は5～6cmのやや深水にして保温に努める。
高温時は3cm程度の浅水にし、水温と地温の上昇を図り、分げつを促進させる。
- (2) 株当たり20本程度の茎数を確保した水田では、天候の良い日を選び、中干しを行う。茎数が不足している水田や低温が続く場合には、中干しを行わない。
- (3) 中干しは、田面に軽くひび割れが入る程度とし、幼穂形成期前(7月上旬頃)には必ず終了する。

2 病虫害防除

(1) いもち病

ほ場に放置されている補植用苗は、葉いもちの発生源となるので速やかに処分する。また、葉いもちは、7月上旬頃から見られることが多いので、ほ場をよく見回り、早期発見に努める。葉いもちが例年発生する水田で、薬剤の散布を予定している場合は、6月末までに散布する。

(2) 斑点米カメムシ類

7月中旬頃までに、畦畔や水田周辺の雑草地などの草刈りを地域一斉で行う。

3 雑草防除

水田内に雑草が多く残っているほ場は、雑草の種類、草丈・葉齢を確認して、中後期剤を適期に散布する。

小 麦

《生育状況》

- 1 生育観測ほの出穂期は5月14日で平年より6日早く、開花期は5月19日で平年より8日早かった。
- 2 うどんこ病、赤さび病の発生は平年並である。
- 3 生育観測ほの6月10日現在の生育は、平年より稈長は短く、穂長は長く、㎡当たり穂数は少なかった。

【生育観測ほの生育状況（品種：ネバリゴシ）】

調 査 地	年次	出穂期 (月/日)	開花期 (月/日)	成熟期 (月/日)	6月10日現在		
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)
十和田市相坂	本年	5/14	5/19	未達	74.0	10.1	551
	平年	5/20	5/27	7/ 5	83.6	8.1	667

※平年値は平成23年～令和7年の平均値、6月10日の平年値は成熟期調査時の値

《今後の主な作業》

1 収 穫

- (1) 収穫適期は出穂後の積算気温で830～950℃、出穂後日数で51～55日が目安である。出穂後の積算気温から推測する出穂日ごとの収穫適期は、出穂日が5月12日のほ場は6月30日～7月6日、出穂日が5月16日のほ場は7月3日～7月9日と予想される。

【積算気温到達日（十和田アメダス）】

出穂日 積算気温	5月12日	5月14日	5月16日
830℃	6/30	7/ 2	7/ 3
950℃	7/ 6	7/ 8	7/ 9

注) 6月15日までは本年値、6月16日以降は平年値で積算

- (2) 収穫は、茎葉が完全に黄色となり、穂を手のひらでもむと脱粒しやすく、子実が爪で割れにくい状態になった頃（子実水分30%程度）をめどに行う。
- (3) 収穫が早すぎると未熟粒が多くなり、遅すぎると黒かび粒や穂発芽の発生により品質が低下するので適期に行う。
- (4) 倒伏した小麦は、品質のバラツキが生じるほか穂発芽になっている可能性が高く、別の小麦の品質を落とすので、混合させないよう仕分けを行う。
- (5) 農産物検査法の検査規格における赤かび粒混入限度は0.0%に設定され、この基準を超えるものは流通できなくなるため、収穫前に赤かび病の発生が見られる場合は、発生のないほ場と仕分けして、収穫・乾燥を行う。

大豆

《生育状況》

- 1 一般ほ場のは種作業は例年並の5月25日から始まり、出芽揃いは良好で、病害虫の発生は見られない。
- 2 生育観測ほのは種期は平年より3日遅い6月4日で、出芽期は平年より4日遅い6月14日であった。出芽は良好である。

【生育観測ほの生育状況（品種：おおすず）】

調査地	年次	は種期 (月/日)	出芽期 (月/日)
十和田市赤沼	本年	6/ 4	6/14
	平年	6/ 1	6/10

注) 平年値は平成22年～令和7年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 中耕・培土

1回目は、本葉2～3葉の展開期(は種後1か月頃)に子葉が完全に隠れる程度まで行い、2回目は本葉5～6葉の展開期(1回目培土の2週間後頃)に初生葉が隠れる程度まで土寄せする。

2 病害虫防除

ウコンノメイガ等食葉性害虫やアブラムシ類の発生が多い場合は、薬剤散布を行う。

ながいも

《生育状況》

生育観測ほの植付期は、平年より3日遅い5月12日で、萌芽期は平年より1日早い5月28日であった。

【生育観測ほの生育状況（庄司系1年子芽付き種子）】

調査地	年次	植付期 (月/日)	萌芽期 (月/日)
東北町滝沢平	本年	5/12	5/28
	平年	5/ 9	5/29
	前年	5/14	6/ 2

注) 平年値は平成28年～令和7年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 第1回目の追肥

- (1) 早植栽培(頂芽付1年子、4月下旬～5月上旬植付け)

種子の養分が少なくなる植付後50～60日頃が適期で、6月中旬～下旬頃、新しいも長3～5cm、つる長100～150cmを目安に、窒素成分で10a当たり5kg程度行う。

- (2) 普通栽培(子いも：5月中旬～6月上旬、切いも：5月下旬～6月上旬植付け)

子いもは植付後45～55日頃(7月中旬頃)、切いもは植付後55～65日頃(7月中旬～下旬頃)が適期で、新しいも長10～15cm、つる長200～220cmを目安に、窒素成分で10a当たり5kg程度行う。なお、切いもの場合、つるの伸長が遅れ気味となるので、必ず新しいも長を確認する。また、低温によりつるの伸長が遅れている場合

も、新しいも長を目安にする。

にんにく

《生育状況》

- 1 生育観測ほの6月10日現在の地上部の生育およびりん球の肥大は平年並で推移している。
- 2 収穫作業は6月16日頃から始まっている。収穫盛期は6月第6半旬頃と予想される。

【生育観測ほの生育状況】

調 査 地	年次	6月10日現在				
		草丈 (cm)	生葉数 (枚)	茎径 (mm)	球径 (mm)	球重 (g)
七戸町鉢森平	本年	83.4	7.3	17.3	60.2	90.8
	平年	82.6	7.5	19.7	59.3	87.3
	前年	89.7	8.4	18.9	53.4	74.8

注) 平年値は過去10か年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 収 穫
 - (1) 収穫はほ場ごとに球の肥大状況を確認して行う。盤茎部とりん片の尻部がほぼ水平になった株が半分以上見られた頃を収穫開始の目安とする。
 - (2) 葉の枯れ上がりが早いほ場、春腐病やさび病の多発ほ場では、早めに収穫する。
 - (3) イモグサレセンチュウによる被害が疑われる場合は農協や普及振興室に診断してもらう。
- 2 乾 燥
 - (1) イモグサレセンチュウの盤茎部への侵入を防ぐため、収穫後は速やかに根を切り落として乾燥する。
 - (2) 暖房機の温度設定は上限を35℃とし、乾燥施設内の温度が40℃以上にならないようにする。
 - (3) 乾燥施設内の通風・除湿は確実にを行い、乾燥中の障害発生（煮え症状など）の防止に努める。
- 3 土壌病虫害発生ほ場の次年産への対策
 - (1) イモグサレセンチュウ、黒腐菌核病の発生が確認されたほ場のにんにくは、種子として使用しない。
 - (2) これらの土壌病虫害が発生したほ場では連作しない。ただし、別ほ場を準備できない場合は、土壌処理剤で土壌消毒した上で、健全種子を植え付けるなど、被害の軽減に努める。

ごぼう

《生育状況》

- 1 生育観測ほは、は種期が5月7日で平年より2日遅かった。6月10日現在は本葉1枚目が展開（または展開中）の生育となっている。出芽揃いは良好であるが、5月の乾燥の影響で生育は平年を下回っている。
- 2 一般ほ場は5月3～4半旬には種したほ場では乾燥の影響で出芽揃いが悪いが、5

月 2 半旬までと 4 半旬以降には種したほ場では発芽揃いが良く、その後の生育も順調である。病虫害の発生は見られない。

【生育観測ほの生育状況（品種：柳川理想）】

調 査 地	年次	は種期 (月/日)	6 月 10 日現在	
			草丈 (cm)	葉数 (枚)
三沢市猫又	本年	5/ 7	6.3	1.0
	平年	5/ 5	10.8	1.8
	前年	5/14	—	—

注) 平年値は平成 28 年～令和 7 年の 10 か年平均値

注) 草丈、葉数の平年値は平成 28 年～令和 5 年の平均値

(前年は子葉が確認できる程度の生育であったためデータなし)

《今後 1 か月間の主な作業》

- 1 中耕除草・培土等を行う。
- 2 ヒョウタンゾウムシ類及びアブラムシ類の防除を徹底する。

ばれいしょ

《生育状況》

- 1 生育観測ほの着蕾期は平年より 1 日遅く、開花期は平年より 4 日早かった。
6 月 10 日現在の草丈は、5 月の乾燥の影響により平年を下回ったが、茎数は平年よりも多く、生育は概ね順調である。病虫害の発生はニジュウヤホシテントウが散見されている。
- 2 一般ほ場のマルチ栽培の開花期は例年並の 6 月第 1 半旬から始まっており、生育は順調に進んでいる。病虫害の発生はニジュウヤホシテントウが散見されている。

【生育観測ほの生育状況（品種：メークイン、黒マルチ）】

調 査 地	年次	植付期 (月/日)	萌芽期 (月/日)	着蕾期 (月/日)	開花期 (月/日)	6 月 10 日現在	
						草丈 (cm)	茎数 (本)
三沢市庭構	本年	3/20	4/27	5/25	6/1	42.6	2.8
	平年	3/28	5/2	5/24	6/5	63.9	2.2
	前年	3/25	5/3	5/31	6/6	56.3	2.6

注) 平年値は平成 28 年～令和 7 年の過去 10 か年平均値

《今後 1 か月間の主な作業》

- 1 疫病を中心とした病虫害の防除を徹底する。
- 2 茎葉処理は、収穫 5～7 日前に行う。茎葉枯凋剤を用いる場合は、各剤の使用時期に注意する。
- 3 茎葉の枯れ、いもの表皮のコルク化を確認してから収穫する。

りんご

《生育状況》

生育観測ほの「ふじ」の6月10日現在における果実肥大（横径）は2.6cmで、平年比96%、前年比104%であった。なお、黒石市（りんご研究所）における果実肥大（横径）は3.5cmで、平年比125%、前年比113%となっている。

【生育観測ほの生育状況】

調 査 地	品 種	6月10日現在の果実肥大(横径)				
		本年 (cm)	平年 (cm)	平年比 (%)	前年 (cm)	前年比 (%)
十和田市米田	ふ じ	2.6	2.7	96	2.5	104

注) 平年値は平成28年～令和7年10か年平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 摘 果

- (1) 果実の生育を確保するために、仕上げ摘果は早めに終える。
- (2) 一通り摘果を終えた園地でも、収穫時まで随時見直し摘果を行う。

2 病虫害防除

- (1) りんご病虫害防除暦に基づき、計画的な防除を行う。
- (2) 今後8月末までの防除では、モモシンクイガの防除剤を毎回混用する。
- (3) 腐らん病の発生が多い。枝腐らんは6月以降も発病してくるので、見つけ次第切り取り、胴腐らんは再発病斑を含め、適切に処置を行う。

牧 草

《生育状況》

生育観測ほ（オーチャードグラス）の出穂始は平年より6日早い5月8日、1番草の10a当たり乾物収量は466kgで平年比160%であった。

【生育観測ほの生育状況（オーチャードグラス）】

調 査 地	年次	出穂始 (月/日)	出穂期 (月/日)	刈取日 (月/日)	草丈 (cm)	乾物収量 (kg/10a)
十和田市米田	本年	5/ 8	5/16	5/22	109.7	466
	平年	5/14	5/17	5/23	84.4	291
	前年	5/14	5/17	5/23	91.8	369

注) 平年値は平成28年～令和7年の10か年平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 1番草収穫及び追肥

牧草（チモシー）は、遅くても開花始期までに刈り取り、乾草又はサイレージに調製する。また、2番草の収量を確保するため、刈取後は速やかに追肥する。

2 雑草防除

ギシギシ等の雑草が多く見られる場合は、除草剤を散布する。

飼料用とうもろこし

《生育状況》

生育観測ほのほは種日は平年より 3 日早く、生育は順調である。

【生育観測ほのほの生育状況（品種：スノーデント 110）】

調 査 地	年次	は種日 (月/日)	出芽期 (月/日)
東北町北栄	本年	5/16	5/25
	平年	5/19	5/27
	前年	5/16	5/25

注) 平年値は平成 30 年～令和 7 年の 8 か年平均値

《今後 1 か月間の主な作業》

雑草が目立つほ場では、雑草の種類に応じた生育期処理用の除草剤を散布する。